

医療ツーリズム急成長

医療ツーリズム 急成長

東南アジア誘客、タイに年250万人

東南アジアで治療や療養目的の外国人を対象にした「医療ツーリズム」ビジネスが急速に成長している。なかでもタイとマレーシアの民間病院がけん引役だ。高度な医療と快適な入院サービスが世界から富裕層を呼び込み、ビジネス感覚あふれる運営手法と規制緩和が生んだ競争が質の向上を促す。医療分野を底層戦略のひとつに掲げる日本は追いつけるのか。

タイ B G H
マレーシア I H H
先端設備を充実

株式会社直営の病院が医療ツーリズムを手がけるケースが多い

	BGH(タイ)	IHH(マレーシア)	フォルティス・ヘルスケア(インド)
上場時期	1991年10月	2012年7月	2007年5月
病院の数	タイ=29 カンボジア=2	マレーシア=11 トルコ=14 シンガポール=4 インド=1 ブルネイ=1 マケドニア=1	インド=21(直営のみ) ベトナム=5 シンガポール=1 モーリシャス=1 スリランカ=1
売上高	443億700万 バーツ(1360億円)	69億8200万 リンギ(2100億円)	605億2000万 ルピー(960億円)
株利益	79億3700万 バーツ(240億円)	7億9900万 リンギ(240億円)	50億ルピー (80億円)

(注)各社の公式サイトから作成。BGHとIHHは2012年12月期決算、フォルティスは13年3月期

内外で買収繰り返す

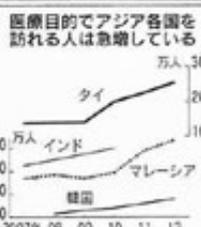
タイのBGHやマレーシアのIHHヘルスケアは事業拡大も積極的だ。BGHは2011年に約126億(約400億円)で国内のライバルなど8病院を買収。三井物産が20%強出資するIHHは昨年9月にトルコで4社を買収し、今年も香港やベトナムでの病院建設計画を発表した。

IHHはマレーシア国内のほか、トルコやブルネイにも進出。昨年7月の株式市場で約20億(約1940億円)を調達し、次の投資に備える。傘下の大手病院「パークウェイ・パンタヤ」を譲渡し、次の投資に備える。傘下の大手病院「パークウェイ・パンタヤ」の高橋武嗣社長は「三井物産と連携して中国進出も計画している」と話す。



シンガポールにあるIHH地下C病院

バンコク病院国際外来棟。市中心部の高級住宅街に近い院内は、中東やアフリカの民族衣装を身にまとった患者でにぎわう。150人に及ぶ通訳が控え、26ヶ国語に対応。世界から年間20万人以上が訪れる。15階にあるVIP向けの個室の広さは80平方メートル。国内外の要人がお喜びで訪れる。この病院はタイ最大の病院グループ「パンコク



医療目的でアジア各国を訪れる人は急増している

タイ、インド、マレーシアの医療ツーリズムの各国シェア(売上高ベース)



タイ、インド、マレーシア、シンガポール

(注) Frost & Sullivan調べ

バンコク病院国際外来棟。市中心部の高級住宅街に近い院内は、中東やアフリカの民族衣装を身にまとった患者でにぎわう。150人に及ぶ通訳が控え、26ヶ国語に対応。世界から年間20万人以上が訪れる。15階にあるVIP向けの個室の広さは80平方メートル。国内外の要人がお喜びで訪れる。この病院はタイ最大の病院グループ「パンコク

東南アジアでは多くの国で日本のような国民皆保険は確立されていない。所得水準の上昇に伴い、海外医療の需要は増えている。タイのBGHやマレーシアのIHHはこうした需要を受け皿となり成長している。

このため需要高も高まる。高給手を出発するシェフが料理に誇りを示そうと系列病院のスイートルームは1泊約1万4000円(約18万円)だ。

医療ツーリズムは4年前に400億円、2012年には1000億円を突破した。タイの外国人患者数は12年の受け入れ数は230万人と08年の220万人に増えた。マレーシアも15%増の67万人に達した。

東南アジア諸国連合(ASEAN)は熟練労働者の移動を促進する見込み。移動国間の国境の移動が容易になり優秀な人材の受け合いが数多く見られる可能性がある。こうした動きを見据え、患者を呼び出す利だったインドネシアでも華人医師が活躍し始めていた。建設が進められた。インドではフォルティス・ヘルスケア・グループが台頭。インド国内にとどまらずベトナムやシンガポールなどでも事業を拡大している。

日本出遅れ、規制足かせ

医療関連の規制や制約が多い日本は医療ツーリズムで出遅れている。2011年に始めた医療費外。医師会などは「富裕層を自由にする」として医療費を自由にする。しかし、株式会社形態に比べ経営の自由度も限られる。三井物産は成長戦略のひとつに「医療」を掲げ、規

規制緩和もようやく動き始めた。東南アジアの病院の多くは診療報酬を自由に決める。高給手を出発するシェフが料理に誇りを示そうと系列病院のスイートルームは1泊約1万4000円(約18万円)だ。

東南アジア諸国連合(ASEAN)は熟練労働者の移動を促進する見込み。移動国間の国境の移動が容易になり優秀な人材の受け合いが数多く見られる可能性がある。こうした動きを見据え、患者を呼び出す利だったインドネシアでも華人医師が活躍し始めていた。建設が進められた。インドではフォルティス・ヘルスケア・グループが台頭。インド国内にとどまらずベトナムやシンガポールなどでも事業を拡大している。

実際の新聞記事

東南アジアで治療や療養目的の外国人を対象にした「医療ツーリズム」ビジネスが急速に成長している。なかでもタイとマレーシアの民間病院がけん引役だ。高度な医療と快適な入院サービスが世界から富裕層を呼び込み、ビジネス感覚あふれる運営手法と規制緩和が生んだ競争が質の向上を促す。医療分野を成長戦略のひとつに掲げる日本は追いつけるのか。

バンコク病院国際外来棟。市中心部の高級住宅街に近い院内は、中東やアフリカの民族衣装を身にまとった患者でにぎわう。150人に及ぶ通訳が控え、26ヶ国語に対応。世界から年間20万人以上が訪れ

電子版で関連記事、過去の記事も掲載。Web刊「時事アsia」

る。15階にあるVIP向けの病室の広さは80平方メートル超。国内外の要人がお忍びで訪れる。

この病院はタイ最大の病院グループ「バンコク・ドゥシット・メディカル・サービシーズ(BGH)」が運営する。BGHはタイやカンボジアに31の病院を抱える。

東南アジアは欧米に比べ手術などの費用が安いとされるが、それだけが患者を集める理由ではない。規制の緩さと民間経営の競争原理が先端医療サービスを磨く。

日本では利益追求に走らないようにと細部まで診療報酬が定められ、病院経営も医療法人に限られる。東南アジアでは病院も株式会社形態が一般的。高い報酬を約束する病院に優秀な医師も最新の設備も吸い寄せられていく。

東南アジアでは多くの国で日本のような国民皆保険は確立されていない。所得水準の向上で先端医療技術や手厚いサービスを求める富裕層は増えている。タイのBGHやマレーシアのIHHはこうした需要の受け皿となり成長している。

このため営業活動も活発だ。BGHはアフリカやベトナムに加え、ブータンにも拠点を設立。2011年には日本でも**京都武田病院(京都市)**など9病院と提携、患者の紹介を受ける。

マレーシアを中心に世界で32病院を展開するIHHヘルスケアは先端設備を整えた病院内の診療室を医師に分譲。優秀な医師が壁を隔てて競い合う。シンガポールの拠点病院では昨年秋、PET-MRIと呼ばれる最新の診断装置を導入した。体内の腫瘍の状態を調べがんをいち早く発見する。

同国の民間病院では初の試み。富裕層の支払いと上場で得た巨額の資金で診療水準を高める。高級ホテル出身のシェフが料理に腕を振るう系列病院のスイートルームは1泊約1万4000シンガポールドル(約108万円)だ。

医療ツーリズムは2004年に400億ドル規模だった世界市場が2012年には1000億ドルを超えたという試算もある。タイの外国人患者の2012年の受け入れ数は253万人と2005年の2倍に膨らんだ。マレーシアも前年比15%増の67万人に達した。

東南アジア諸国連合(ASEAN)は熟練労働者の移動規制を緩和する見込み。加盟国間の医師の移動が可能になり優秀な人材の奪い合いが激しくなる可能性がある。

こうした動きを見据え、患者を送り出す側だったインドネシアでも華人系財閥が主導して病院建設が進み始めた。インドではフォルティス・ヘルスケア・グループが台頭。インド国内にとどまらずベトナムやシンガポールなどで事業を拡大している。